

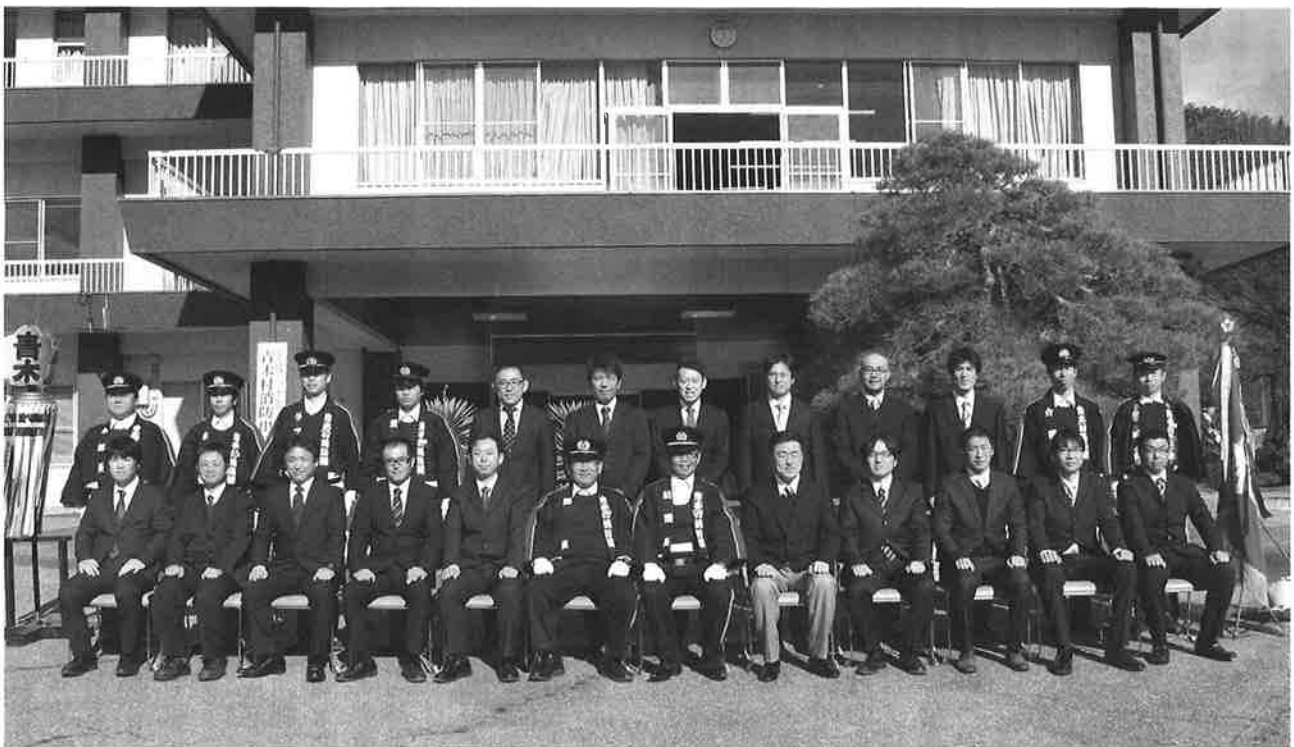
青木村消防団広報

KODAMA

発行所／青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111
発行責任者／岩下竜太郎 編集／本部班

No. 25

発行：平成30年2月1日



平成29年度青木村消防団役員と退団者の皆様

輝かしい平成三十年の新春を迎え、長い歴史と伝統を誇る青木村消防出初式が、ここにかくも盛大に挙行出来ます事は、団員と共に喜びとするところであります。本日ご臨席賜りました来賓の皆様におかれましては、ご多忙の中お越しいただきまして、誠にありがとうございます。また、団員とご家族の皆様に対しましては、日頃のご活躍とご苦勞に深く感謝いたします。

さて、ここで昨年を振り返りますと、当村におきましてはまずは無火災でありました。これは大変な名誉であり、日頃の団員諸君の火災予防啓発の賜物と、村民の皆様のご協力、そして川西消防署の皆様のご指導のおかげであります。この場をお借りして、感謝申し上げます。その他災害への出動といたしましては、台風21号・22号への事前事後の出動のみであります。その際には昼夜を問わず活躍してくれた団員諸君の姿に勇気を与えられました。当村においては、一年を通して災害の少ないありがたい一年でありました。

その一方で当消防団においては、四分団制から二分団制への移行という大きな機構の変化がありました。災害予防のあり方、地元地域への係わり方を新たに模索していくという一年でありました。その中で去る7月9日には、上小消防ポンプ操法大会及び長野県消防ラッパ吹奏大会上小地区大会の青木村開催を、見事に成功させてくれました。我々のような小規模消防団が、上小地区を相手に大会の準備をするというのは、ひとつの大規模災害にどう立ち向かっていくのかとい



平成三十年青木村消防出初式 式辞

団長 岩下 竜太郎

う訓練であったと思つてい
ます。近年はいつ何時、ど
のような規模の災害がやっ
てくるか解らない時代で
す。一つ一つの活動がまさ
に訓練であり、そこに参加
していくことで縦横の關係
性を確認し、今自分ができ
ることは何か、消防団一丸
で考えてまいります。我々
の活動の基礎は「備え」で
す。それは「災害への備え」
であり「未来への備え」で
もありません。厳しく大変な
活動が多い中ではあります
が、来るべき新しい仲間の
為に「明るく温かい消防団」
を築いていきたいと思います。

さてここで、退団者の皆
様をご紹介いたします。山
田修前副団長を始め、団本
部、分団本部の要職を歴任
された皆様、団員として常
に前線に立ち続けて頂いた
皆様です。長年にわたり当
村の安心安全のためにご尽
力頂きました。ありがとうございます。
最後に、我々青木村消防
団は複雑多様化していく災
害に対し、郷土愛護の精神

を守ることが出来るように
なりました。
まだまだ書き足りない位
いろいろな経験をさせて頂
きました。怒涛の二年間を
支えあいながら仲間と過ご
した日々や経験は一生の宝
となる事でしょう。残りの
任期を精一杯全うしますの
で、村民の皆様におかれま
しては何卒宜しくお願い申
し上げます。

を胸に、伝統ある消防団精
神に則り、全身全霊でたち
むかつてまいります。結び
に、本日ご臨席賜りました
来賓各位、並びに団員諸君

平成二十九年を 振り返って

副団長 香掛 俊一朗



村民の皆様には、日頃よ
り消防団活動に深いご理解
とご協力を賜り、誠にあり
がとうございます。

平成二十九年を振り返っ
て見ますと、青木村消防団
は四月に四分団制から二分
団制へ移行となりました。
災害出動のほうでは、台風
接近での豪雨による出動が
あり、火災のほうは、無火
災で一年を過ごす事ができ
き、これは村民の皆様の方
災意識の賜物と深く感謝致
します。
さて、冒頭で申し上げた

の益々のご活躍とご健勝、
青木村の無火災、無災害を
ご祈念申し上げます。式辞とい
たします。

通り消防団では四分団制か
ら二分団制へ分団統合とな
り、大きな改革が行われま
した。とはいえ、問題が全
て解決できた訳ではござい
ません。青木村消防団の未
来を考え、更に議論を重ね
ていかなくはならないと
思います。

来年度は新体制で消防団
を運営して参りますが、団
員の発想力、創意工夫で力
を合わせて、青木村の安
心・安全を守って参ります。
また、団員を随時募集して
おりますので、私達と一緒
に消防団活動で村を守りま
しょう。



第8回長野県女性消防団員意見発表会

「第8回長野県女性消防団員意見発表会」が平成29年
11月14日に小諸市内で開催され、県下4ブロックから
各1名が選出され、東信ブロックからは、青木村消防
団第二分団の西戸公香さんが代表として、会場に集
まったおよそ700人の前で、意見発表をされました。
(紙面の都合上、一部編集させていただきます)

この一年間を 振り返って

本部長 相澤 利彰



この一年間を振り返る
と、挑戦の年だったと感じ
ました。二分団制がスター
トし、上小ポンプ操法、ラッ
パ吹奏大会青木村開催、総
合防災訓練の図上シミュ
レーション訓練、女性消防
団員意見発表会参加等新し
い行事が多く有りました。
本部としても何が正解なの
か解らない手探り状態での
スタートでしたが、これら
の行事が成功出来たのは、
本部の力だけでは無く、各
分団の団員や本部班の力が
有ったからだと思います。

村内では火災等の大きな
災害発生も無く平穏な年で
有り、これも村民の皆様の方
災意識の賜物と深く感謝
申し上げます。
最後に、村民の皆様が安
心安全に暮らせる様、消防

平成二十九年度を 振り返って

水利救護長 宮原 誠司



本部役員を務めた一年弱
を振り返ると様々な事があ
りました。

大きな行事としてはま
ず、上小ポンプ操法大会並
びにラッパ吹奏大会が青木
村で開催されました。勿論
初めての経験で少し心配に
なつて何度も何度も本部役
員でリハールや練習を重
ねました。大変な分終わっ
た後の達成感最高でし
た。

次に大きな改革としては
二分団制の発足です。昨年
度まで四分団で活動してい
ましたが本年度から二分団
制へ移行しました。それに
より、多くの仲間が各地域

一年間の活動を 振り返って

警備長 池田 浩幸



今年度、二分団制へ移行
出来たのも、村民の皆様、
消防団活動に対する、深い
ご理解とご協力のおかげで
す。誠にありがとうございます。
私は二年目となります警備
長を務めて参りました、
一年目の経験を活かし夏祭
り、出初式等の警備を行う

ことが出来ました。
今年度も三年目となる各
分団、本部班より、選手を
募り、ポンプ車班を率い、
操法大会に出場致しまし
た。

今回は上小大会が青木村
開催となり、人員配置から
警備図の作成、前日準備等
を行い、団員をはじめ村民
の皆様にご協力を賜り、滞
りなく成し遂げることが出
来ました。誠にありがとうございます。
来年度から、新しく本部
役員として、機関長を設け、
ポンプ車班を率いて参りま
す。

村民の皆様には、ご理解
とご協力を賜り、安心安全
な村づくりの為、消防団員
一丸となり邁進して参りま
すので、今後ともご指導ご
鞭撻のほど、よろしくお願
い致します。



平成二十九年度を 振り返って

ラッパ班長 奈良本 任司



平成二十八年にラッパ班
に就任し間もなく二年が経
とうとしています。

今年度より二分団制とな
り、ラッパ班としましては
第一、第二両分団より選出
された二〇名程で活動して
おります。
昨年七月九日にポンプ操
法、ラッパ吹奏の上小大会

団員一丸と成り精進してま
いますので、ご理解とご
協力をお願い申し上げます。

本部役員を務めた一年弱
を振り返ると様々な事があ
りました。

大きな行事としてはま
ず、上小ポンプ操法大会並
びにラッパ吹奏大会が青木
村で開催されました。勿論
初めての経験で少し心配に
なつて何度も何度も本部役
員でリハールや練習を重
ねました。大変な分終わっ
た後の達成感最高でし
た。

次に大きな改革としては
二分団制の発足です。昨年
度まで四分団で活動してい
ましたが本年度から二分団
制へ移行しました。それに
より、多くの仲間が各地域

青木村消防団第二分団 西戸 公香



私が消防団
に入る事に
なつたきつ
けは父の一言でした。
「村で女性の消防団員も募
集してらっしゃいぞ」

その言葉を聞き、私が小
さい頃に副団長を務めてい
た父が、法被を羽織って出
て行くかっこいい姿を思い
出しました。その時瞬時に
「私も消防をやりたい！」
と父に言いました。しかし
早朝の訓練や深夜の出動な
ど消防の厳しさを知ってい
る父でしたので、最初は首
を縦に振りませんでした。
それでも私は青木村が好き
で、消防へ入る事によって
私を育ててくれた地域の人
への恩返しが出来るのであ
れば入団したいと強く思い
ました。その熱意がようやく
く伝わり消防団に入団する
事を了承してくれました。

私が消防団に入団したの
は平成26年度で、その翌年
から活動を開始しました。
入団した当時は本部付けで
活動していました。主な活
動内容は、月に一回広報車

にて火災予防の広報をしたり、大会や出初式など式典のお手伝いもしました。平成28年度からはラッパ吹奏大会に女性のラッパ班員が出演するようになりまし
た。今年のラッパ吹奏青木大会では、出場2年目の同期が4位入賞を果たしました。一生懸命にラッパ吹奏をする姿はとてもかっこよく感動しました。

他の活動では普通救命や上級救命の講習へ参加し、救護の知識も身に付けました。そして、今年度は本
部から離れて各自の地元分団で活動をしています。昨年度までと違い、分団付け
になり活動内容が一変しました。広報やピラ配りによる火災予
防啓発。ピラ配りの際は一軒一軒訪問し、住民の方に挨拶をし、声を掛
けるようにしています。そのほか防火水槽や消火栓の点検・整備、地区の住民か
ら依頼があれば防災訓練や消火器の講習も行っています。活動回数
の多さに驚きましたが、村の皆さんと近づけた感じがしてわくわく
しました。

青木村では毎年9月初旬

に村主導で総合防災訓練が行われます。過去には村の施設を対象にして放水訓練と老人ホームの避難訓練を同時に行ったり、地区の方と連携して防災訓練なども
しています。

今年度は9月3日に青木村役場を災害対策本部と想定し、机上でのシミュレーション訓練を実施しました。青木村で震度6強の地震が発生し、ライフラインが寸断された状態で火災や土砂災害が起きた場合、各団員はどのような状況が予想され、どのように行動するのかを想定した訓練でした。この様な大規模災害が発生した場合、正直今の私には何も出来ないという思いがよぎり怖くなりました。

青木村消防団は昭和22年に発足して以来、近年では消防団員数が年々減少傾向にあり、防災力の低下が懸念されます。青木村では平成20年度から団員数確保のため協力団員制度を設けました。協力団員とは定年を過ぎて退団した方で現役団員から要請があった場合、過去の活動経験を活かした

アドバイスも含めて一緒に活動をする方々です。しかし通常の活動は現役団員でまかなっている為、各部に於いての実働人数に陰りが見えてきました。その為、今年度より四分団から二分団に分団統合をしました。そのことにより、分団内で他の部の活動を助け合う事が出来るため、一人ひとりの負担を減らす事が出来ました。

これも、ひとつの地域防災力の強化と言えるのではないのでしょうか。

次に、女性消防団員の役割とは何かを考えました。女性が男性と同じ事を出来るかと言えば無理はありません。しかし、逆に男性が気付かない、出来ない部分を女性の目線や感覚で捉え活動する事が可能だと思えます。そこで女性消防団員としてやってみたい事があります。現在、上級救命の資格は持っているのですが、いざ実際に倒れた人やケガをした人が目の前にいた場合、体が瞬時に反応するまではないかと思えます。その為、例えば分団や部単位で応急手当のテキストを

用いて復習を含めた訓練を定期的に開き、応急手当の技術を体に覚えこませたいです。

その後、他の人へ指導する事が出来る応急手当普及員の取得をしたいです。その資格を取得したら、まずは小さい子どものいる子育て世代のお母さんを中心に子どもの誤飲や軽度のやけど、心肺蘇生法などの救命処置を指導出来るような講習会を開きたいです。更には、公民館などで地域住民を集めて、いろんな世代に向けて講習を開いて救命の技術を広められればと思います。

最後に、現在ある消防資機材を有効に取り扱えるようになりたいです。年間を通して数回、可搬ポンプなどを使い消火訓練を実践できる場を設けたいです。

そのような活動を通じて女性が消防活動に携わることも、一つの地域防災力の強化と女性消防団員の役割ということに当てはまるのではないのでしょうか。

以上で青木村消防団の意見発表を終わります。

あなたも消防団に参加しませんか？
40歳以下の方なら男女問いません。



地域の安心・安全のため共に頑張りましょう！

お問い合わせは青木村役場総務企画課（NTT・情報電話共通 49 - 0111）まで。